



妙高

妙高市立妙高中学校
 学校だより 第22号
 平成26年4月15日

携帯電話用QRコード



心に「羅針盤」を…



校長 鈴木 恒夫



美しくそびえる妙高山に見守られ、37名の新入生が妙高中学校に入学しました。中学校生活が充実した楽しいものになるよう、新入生に向けて二つの話をしました。(式辞より抜粋)

◆「心の羅針盤をもってほしい」

羅針盤とは、船の進む方向を定める道具です。磁石が南北を指し示すことを利用して、簡単に言えば方位磁針のことです。昔はGPSなどなかったもので、陸地の見えない大海原を船で進むときは、太陽や北極星をたよりに方向を定めていました。でもそれでは曇りの日は船を進めることはできません。羅針盤が発明されてからは星が見えない夜でも船を進めることができるようになりました。コロンブスのアメリカ大陸到達も羅針盤がなくてはかなわなかったことです。

皆さんは中学校の三年間でどんなことに挑戦しようと考えていますか。中学校は、自分で考え、判断し、行動する場面が多くなります。そんな皆さんにとって正確に働く「心の羅針盤」は必要な道具です。思うように結果が出なくて悩むとき、様々な誘惑に負けそうになったとき、羅針盤の針が正しく向いているかが大切になってきます。進むべき正しい道を示してくれる羅針盤を皆さん一人一人の心の中に育ててほしいと思います。

◆「よい友達になってほしい」

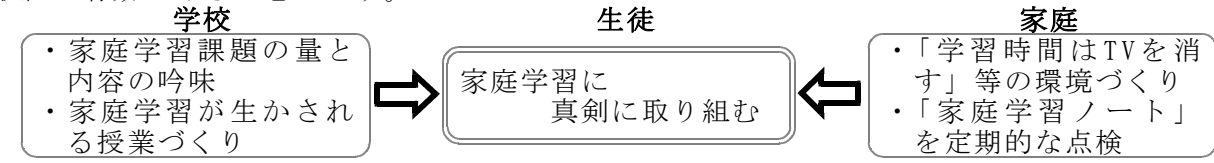
「よい友達をつくる」ではなく「よい友達になる」です。人には相性があって気が合う人もいれば合わない人もいます。しかしよく相手を知っていくと、どの人にも「よさ」があることに気付くものです。だから気の合う友達をつくるだけではなく、学級や部活動などで進んで働きかけ、よい友達、よい仲間になる努力をしてほしいのです。中学校時代の親友は生涯の友となります。互いに支え合い高め合う、本当の友達になってほしいと願っています。

「共通実践事項」…ご協力をお願い

4月25日のPTA総会で「妙高中学校の教育2014」を配付し、今年度の教育活動の概要を説明します。右図は、その中の「共通実践事項」の一部です。

子どもたちの健全な成長のためには、「家庭・学校・地域」の三者が同じ方向を向いていることがとても大切です。例を一つあげれば「家庭学習を真剣に取り組む」は教師・保護者共通の願いですが、家庭学習習慣を育成するためには、例えば次のような取組が有効であると思います。

ともに学び・育つための共通実践事項



「共通実践事項」には「知・徳・体」のそれぞれについて「生徒に頑張してほしいこと」と「学校が取り組むこと」、そして「ご家庭にお願いしたいこと」が書かれています。PTA総会では、もう少し詳しく説明させていただきます。目指す生徒の姿を共有し、学校と家庭が連携した取組をしていきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。